

## 2030年の働き方は？

これまでは20歳前後で就職し、60歳の定年まで一つの会社で勤め上げ、定年後は悠々自適に老後を過ごすことが一般的なライフスタイルとされていた。しかし、2人に1人が100歳まで生きるとされるこれからは、経済的な必要性からも70歳まで働くことが当たり前になるかもしれない。特に、年金制度問題や退職までの貯蓄額などの資産形成に関する事項は、とても重要な問題となる。

生産年齢人口の減少、第4次産業革命といわれるデジタル化の進展、脱炭素に向けた産業構造の変化など社会・経済・環境は劇的な変化の真ただ中にある。そのような中で、現代の社会人は人生百年時代において、どのような働き方やワークライフバランス、人生設計を目指すのか。そのためにはどのような準備を始めなければならないのだろうか。そして、企業の経営者は、働き方が激変する中で社員とどのような関係を構築すればよいのだろうか。

未来の姿をうかがい知るべく、4人の社会人のペルソナ<sup>\*</sup>を設定してみた。

※ペルソナ：架空のユーザー像や人物モデルのこと



(23歳 女性)

■**経歴** 2007年生まれ。2027年に高専を卒業後、大学へ編入。2030年に就職するとともに、専門性を高めるために大学院へ入学。

■**仕事** サイバーシティアナリスト

**オ**ープンメタバースのサイバーシティを各市町村が開設していて、わたしはアナリストとしてサイバーシティの活用状況を分析しています。また、専門性を高めるため、仕事をしながら大学院に通っています。メタバースのサイバーシティでは、移動時間などの非効率な面が排除され、社会活動の生産性が飛躍的に改善されています。



**会**議も仕事もオンラインでどこにいても出来ます。ジョブ型雇用で週3日相当の24時間、月間96時間が契約上の勤務時間となります。実際の勤務は大学院のスケジュールとの調整を行い、大学施設内のコワーキングスペースを活用しながらのリモートワークが基本です。会社の先輩との細かい打ち合わせもあるので、週に1回は必ず会社に出勤するようにしています。



**今**の年収は720万円です。別途副業で月5万円程度稼いでいます。副業も投資もだいが浸透しています。資産形成は、イデコを中心に毎月5万円、投資はグローバルに分散投資を行っていますが、経済成長が著しい東南アジアとアフリカに特に興味を持っています。



(43歳 男性)

■経歴 1987年生まれ。2011年に大学を卒業し、地元企業（製造業）へ就職。29歳で結婚し、現在3児の父。

■仕事 営業課長

**仕** 事と家庭の両立を重視しています。平均寿命・健康寿命共に延びていて、老後資金が不安なので、70歳までは働き続けなければならぬだろうと思っています。ただ、自分が70歳になるまで今の会社で仕事があるか心配なので、フリーランスとして独立できるように、オンラインでの大学講座やプレゼンテーションスキルの講座を受講しています。



**と** ても子育てがしやすい社会になった、と感じています。働く女性が抱えていた「仕事・家事育児・介護」の悩みの解消手段として、「子どもは社会全体で育てる」という意識が高まり、異次元の子育て支援策が展開され定着してきました。特に、子育てに関する男性と企業のかかわり方が抜本的に変わり、3人目の子供が生まれたときは、自治体と会社などから合計1000万円の出産祝い金を受け取りました。休日の家族5人でのキャンプが一番幸せな時間です。

**老** 後のために2000万円の確保が必要だと言われたこともあり、現在イデコを中心に投資資産が1500万円、住宅ローンが3000万円、世帯収入が1200万円あります。自治体の支援もあり子供の教育資金負担が軽くなっていますが、物価も徐々に上がっているため70歳までに4000万円は貯めたいと考えています。子どもが大きくなると妻のフリーランスの仕事が増やせるものの、心身ともに健康で、楽しく仕事が続けることが大切だと思っています。

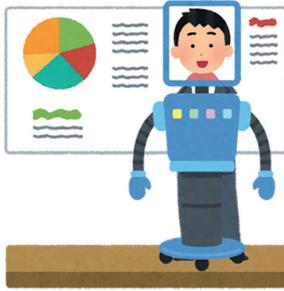




(64歳 男性)

■経歴 1966年生まれ、バブルを経験。数年前に離婚。60歳で役職定年を迎え、70歳の定年まで今の会社で働く予定。

■仕事 営業



**昔** は、体育会系の典型的なサラリーマンで、残業や接待にも積極的。取引先からも信頼される営業部長として活躍していました。いまでは営業活動が大きく変わり、AIが取引先のデータを分析して提案書を作成してアバターがプレゼンまでするので、会社の若手はアポイント取りと顧客情報入手が中心となっており、営業スタイルのギャップに愕然としています。

**家** 庭は妻に任せっぱなしだったためすれ違いも多くなり、役職定年と同時に離婚しました。財産分与があり、残った貯蓄はわずか100万円、現在の月収30万円のうち8万円は子供の養育費です。住宅ローンもあと800万円残っており、退職金で返済しようと思います。また、90歳と88歳の両親の世話をしないといけないのですが、介護のこともよくわからないので、市役所に相談に行こうと思っています。介護用ロボットの使い方も覚えなないといけません。親からの財産の相続にも期待できず、自分の老後に不安もあります。



**シ** ニア向け婚活サービスに参加しており、そこで知り合った人と実際に会おうかどうか迷っています。AIの相性チェックで95%相手が探せるようで、今のところ話は合っているような気がしているのですが、リアルに会うとなると緊張します。高齢になった時の一人暮らしの不安を少しでも解消できるようがんばりたいと思います。



(75歳 女性)

■経歴 1955年生まれ。24歳で結婚し、2人の子どもを授かる。育児と仕事を両立させ、取締役まで昇進後、60歳で起業。

■仕事 農業（農産物の6次産業化）

## 食

品製造会社の取締役を退任後に起業し、AIを使ったスマート農業と6次産業化に取り組んでいます。長い社会人生活、子育てをしながら仕事を継続できたのは、フリーランスで時間の調整が比較的容易だった主人と近くの実家に住む両親の協力があったからだと思います。

## 今

日は、契約している農家さんと新商品開発の打合せです。農場を訪問し、まずはロボットによる収穫のお手伝いをして午前中に出荷を終わらせます。その後、タブレットで気象データと野菜の生育状況を確認しながら打合せをします。スマート農機の普及で生産者の負担は大幅に軽減されました。また食糧安全保障の重要性が年々高まり、政府は国内の食料自給率向上のための支援策が充実するとともに、一方で法人による農地所有に関する規制緩和もあったことから、最近では農業ベンチャー企業を始める若者も増えています。



## こ

の10年で高齢者が急増し、医療費負担も年々高くなっています。生活習慣病を抑えてテクノロジーで病気を事前に予防することが大切だといわれています。そのためヘルステックが進み、調子が悪い時には、ウェアラブル端末に搭載されたAIから受診を薦められ、すぐにオンライン診療が予約されます。私は信念として、「やはり人の健康は食事から」だと思っています。これからは、安心安全な食を起点にビジネスを展開していこうと思います。

新年の始まりに合わせて、7年後の2030年の働き方を空想してみた。果たしてどのような未来になっているのだろう。社会人の働き方とライフスタイルについても今とはかなり異なったものになっている可能性が高い。地球環境、世界経済、日本の人口、地域社会など様々な面において激変する中で、「Well-being」すなわち「幸福と健康」への価値観のシフトだけは確実に進むのではないかと考えている。

「人生は選択の連続である」。これは劇作家として有名なシェイクスピアが劇中で使ったセリフの一つだ。従業員も経営者も、より良い未来に向けて、常に選択することに相対している。従業員の方はこれからの自分の人生設計について、経営者の方は自社の今後のありかたについて、どのような選択を重ねていかれるのだろうか。

